

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里-静岡与一(ユニット①②合同)		
所在地	静岡県静岡市葵区与一2丁目5-19		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成24年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200858&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200858&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街でホームには道を挟んで小さな川が流れています。また、駐車場の入口には花壇があり、沢山の花を入居者様と一緒に植えて、今も綺麗に咲いています。オープンしてから1年余り。徐々に外出や行事などが増えています。また、毎日の散歩も日々ルートを変えながら気分転換を図り、炊事・掃除・洗濯も出来る事は入居者様にも積極的に手伝って頂きながら毎日を生き生きする事が出来るように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年の1月の開設から利用者の安定と職員の標準化に力を注いでいて、現在は環境作りや地域との関わりへ向ける余裕もできています。日毎に町内会の行事に参加する機会が増えてきていて、嬉しいことに市の防災訓練においては集合場所となり、200名余の地域住民が事業所の駐車場に集まった。小学生の学区探検など地域の訪問も増えている。レクのボランティア訪問も定期として始まり、また中学生の清掃ボランティア訪問の予定もある。このように1歩、1歩前進している様子を実績で見え、写真や書面などでも視認した。管理者は現在の課題が明確で実践力もあることから、これからの充実と発展が大いに楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「生き生き生きる」を職員内で共有し、入居者様にも生き生きと生活して頂ける様なケアを心がけている。	採用時の研修でPDCAサイクルについて説明を行っていて、職員は重要性を理解している。そのうえで、目標シートを使って管理者が職員の目標達成に二人三脚で伴っている。このように理念を具体的に実践できる仕組みがあり、丁寧に取り組まれていることを書面で確認した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に参加している。地元行事の際に駐車場を使用していただいたり、徐々に地域に参加出来るようになってきている。また地域の小学生の施設訪問の受け入れもやっている。	管理者は開所にあたり、地区会長に面談の時間を十分にとってもらい、地域密着型の意義や特徴について理解を求めている。その努力が実り、地域行事への参加が叶っている。S型デイサービスや草刈りなどの参加も実現したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。参加者からの意見を積極的に取り入れている。	「職員の顔や名前がわかりにくい」「入口で洗濯物が目に入るのはいかがか」といった具体的な意見がもらえていて、事業所も速やかに改善に着手している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者とは連絡を取り合い、直接窓口へ伺い相談などさせていただき協力関係を築くよう取り組んでいる。生保利用者についても枠を設け、随時行政と連携して受け入れている。	成年後見など市を経由しての利用者が数名いて、市職員の訪問が頻回にあるため、コミュニケーションの機会が多い。運営推進会議の案内と報告(議事録)も毎回行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がどのようなものを月に1度の定例会で話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定例会で意識を克己しつつ、現場において気がついた点は管理者が個々に指導している。定例会を重ねてきて、職員意識も高まってきていると管理者も感じている。訪問時も配慮のある職員の動きを視認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いには日頃から注意して、虐待に繋がらない様に未然に防げる様に努めている。月に1度の定例会でも情報共有を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護制度、成年後見制度を利用している方もいる。必要な方については活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて利用者や家族に十分説明を行い、理解していただいた後に契約を結ぶよう図っている。		
10	(6) biukou	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々で話を伺う機会を設けている。居室で話したり、事務所に直接来られてお話を下さる方もいる。話の内容によっては全職員への通達を行い直ぐに対応できるようにしている。	支払いが引き落としてないため、月に1回は面会に来てもらえていて、会話をもつ機会がある。また、請求書の送付時に「ご家族への手紙」を手書きで封入し、遠方の家族にも安心してもらえるように努めている。納涼祭には大半の家族が集い、顔見知りになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見要望は、常に聞く姿勢をとっており、また、月に一度の会議には本部の参加もあり意見や提案を聞く機会を設けている。	マニュアルなど業務手順書は職員の話し合いで制作していて、状況変化に伴う職員意見を反映し作り替えている。会議でも一人1回以上発言できるよう、管理者が配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績や勤務状況を評価し、法人で社員表彰式を実施し向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行える様に現在整備している。また外部の研修についても提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の交流会や介護相談員・意見交換会に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と密な関係を築けるように、声かけ等を頻回に行い対話する機会を増やして、利用者様より話を伺えるような環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様とは別の席を設け、改めてお話を伺うようにしている。また、そのケースごとの事情に鑑みて、その都度柔軟に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等にて、アセスメントを行いサービス担当者会議を開催し、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりが役割を持って暮らしていけるような環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上でより良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、馴染みの方が訪ねてきており、懐かしい場所へ出向く事もある。利用者様との会話の中で記憶に残ってる事を交えつつ会話をしよう心掛けている。	家族のほかにも友人や近所づきあいのあった人の訪問がある。信仰を続けている利用者も数名いて、仏壇を持ち込んだり宗教新聞を購読している。墓参りなどは家族の協力を得て、叶っている。また、在宅時からの習慣ということでヤクルトを毎日飲んでいる人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の様子を見て随時話し合いながら、孤立する事が無いように、トラブルの発生を抑えるように、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すぐに関わりを断ち切らず、相談等などに応じて長くお付き合いをしていけるような関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。困難なときには一緒に行ったりして、自立支援につながるよう努めている。	利用者の訴えなどは経過記録に発語のまま記載するようにしている。また、担当者がアセスメントを取り直し、それをほかの職員に発表するという仕組みに来月から取り組む予定でいる。これにより、職員意識もさらに高まるものと期待される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時でのアセスメント等なるべく多くの情報収集を行い、またご家族にもお話を伺うようにしている。日々の関わりの中で、御本人から得られた情報も、職員間で共有しあっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・生活日誌や連絡帳などで情報を共有し、個別ケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、ご家族の要望も取り入れながら介護計画書の作成をしている。	プランと連携したケアの実践ができる職員を望み、どのようにプランに職員を参画させていくかを課題として、管理者は取り組み方法を再検討している段階である。現在は2名の計画作成担当者(1名はケアマネージャー)がプランを作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに経過記録を作成し、時系列にて記帳し活用して、情報を共有しながら実施や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物、娯楽等の支援を行なっている。個別のニーズに関してケース毎に検討し、必要と思われることを柔軟に提供するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎回ではないが、運営推進会議に地域包括支援センターも参加をお願いしている。また、地元町内会会長にも参加をお願いし情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけ医と連携を図り、御家族様へに報告、相談し適切に受診がなされるよう努めている。	訪問看護が週2回、協力医の往診も月1~2回ある。ほかに、1人の利用者のために往診してくれる医師もいる。在宅時のかかりつけ医も含め、受診支援のほとんどをケアマネージャーが担当し、情報の一元化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回が訪問看護師来訪し、バイタルチェックを行っている。その際、色々な相談が出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった際、かかりつけ医に紹介状を提供していただき、又、退院において家族、病院関係者と連絡を密にとり早期に退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある入居者への対応は、ご家族やかかりつけの医師と相談しながら、全員で支援している。	看取りに取り組む考えはあり、家族の要望に応えるためにも、医療連携(医療加算はとっている)や職員教育を今後の課題としている。	ケースバイケースの事柄であるが、それでもいくつかのパターンを想定し、方針や手順などの整備に取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	重度化しつつある利用者様への支援は、御家族様やかかりつけ医等と相談しながら、全職員で支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、災害時の対応や手順等の訓練を行う。また、地区の防災訓練等にも参加させて頂く予定でいる。	事業所の重要書類は本部に随時届けられていて、情報のバックアップ体制が整っている。排泄処理や食糧など備蓄もある。また、市の防災訓練においては事業所が集合場所となり、200名余の地域住民が事業所の駐車場に集まっている。	事業所の防災訓練にも地域の人の参加のあることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを個人として尊重し、それ相応の言葉掛けを選ぶよう注意し合っている。また、プライバシー保護マニュアルを共有し対応策に努めている。	できるだけ名字で呼びかけるようにしている。ただし、ご希望があれば本人本位で対応している。トイレ誘導や排泄チェックの確認などにおいても言葉遣いを丁寧にするよう、定例会で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、イベント、食事など利用者様との会話の中で、できる限り自己決定していただけるよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを優先して、できるかぎりその人らしい生活を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ひとりに対し部屋担当が居り、衣服や内装に関して主となって気を配り、他の職員や御家族にも随時提案する等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、一人ひとりが可能な事を職員が考えて、声掛けを行い、出来る限り手伝っていただけるような支援を行う。	メニューは主菜をあらかじめ利用者に聞くなどして職員が決めていて、副菜や汁ものをその日にある材料で工夫して作っている。毎食撮影し家族に知らせている成果なのか、彩りよく見た目に美しく、味も大変よい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食記入して体調の状態が把握できるようにしている。水分摂取量に関しても日報に記入にて情報が共有できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをして口腔ケアを行ない、夕食後は入歯の洗浄・保管や洗口液の使用など行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを職員が把握して時間で誘導するように心掛けている。パットや紙パンツの使用も可能な限り夜間のみとする努力を行っている。	バイタルとともに記録をとって、自立している人にも体調管理として失礼のないように確認している。なるべくトイレという方針で、時間パターンを把握して誘導に取り組んでいる。そのため、リハビリから布パンに向上した利用者者が2名いる。食事のご飯に寒天を入れて炊いていて、便秘対策にも日々取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・寒天などデザートに使用し、根菜類などを多めに提供している。またオリゴ糖等も活用している。また、腸の動きを活性化させる為にも体操や散歩も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回以上の入浴を基本として声掛け行い、今入るかどうかを本人に決めて貰ってから、なるべくゆっくりと入浴していただけるようにしている。	1日3人をめやすにしているため、ゆったりと入ってもらえている。毎日入りたい希望があれば対応するが、現状は希望がなく、また体調などを考慮すると足浴や清拭などサービスの変更で対応することになる。ゆずやしょうぶなど季節のお風呂にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は色々な手伝いをさせていただき、また身体を動かして夜はゆっくりと休んでいただけるようにしている。入居者様の体調を考慮して、寝たい時間に休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルを作成して、薬情報はさんである。また、薬の変更時には必ず申し送りノートに記入し、職員全員が読むようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人ひとりが趣味や生活歴を理解するために日頃から情報収集行い、楽しいと思えることを勧められるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩外出は出来る限り行い、個別での希望外出等にも対応することが出来るように職員の人員配置に配慮し、買物など、定期外出の機会を増やす努力をしている。	天候や体調がよければ散歩に出掛けたり、ベランダにて外気浴を楽しんでいる。また、花鳥園、日本平、三保の水族館などへユニット毎にドライブがてら外出する機会も作っている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、可能な方については支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なるべく本人の意思を尊重し、ご家族とも相談の上支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量には十分に配慮し、花を飾るなど、居心地の良いスペースを造れるように努力している。	廊下の足元にライトがあり、取り外しの懐中電灯になっていたり、夜間にはトイレの前にスポットライトがあたるようになっている。また、対面式のキッチンで共用空間が見渡せるようになっていて、総体的にインテリアに安全性が備わっている。また、衛生管理や換気など感染症対策に力を入れていることも視認した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	観葉植物を飾ったり、廊下には絵を飾ったりと見て落ち着ける居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が好きな物を把握し、希望の物があれば御家族様と相談しながら用意して、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	契約時に「家庭のままの空間で」と家族にお伝えしている。そのためか、仏壇や筆筒などが持ち込まれ、それぞれ個性的な居室となっている。身体の変化によりベッドから布団に替えている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽、トイレ、廊下などに手すり等設置し、歩行スペースを広く取る為、配置には気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「生き生き生きる」を職員内で共有し、入居者様にも生き生きと生活して頂ける様なケアを心がけている。	採用時の研修でPDCAサイクルについて説明を行っていて、職員は重要性を理解している。そのうえで、目標シートを使って管理者が職員の目標達成に二人三脚で伴っている。このように理念を具体的に実践できる仕組みがあり、丁寧に組み込まれていることを書面で確認した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に参加している。地元行事の際に駐車場を使用していただいたり、徐々に地域に参加出来るようになってきている。また地域の小学生の施設訪問の受け入れも行っている。	管理者は開所にあたり、地区会長に面談の時間を十分にとってもらい、地域密着型の意義や特徴について理解を求めている。その努力が実り、地域行事への参加が叶っている。S型デイサービスや草刈りなどの参加も実現したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。参加者からの意見を積極的に取り入れている。	「職員の顔や名前がわかりにくい」「入口で洗濯物が目に入るのはいかがか」といった具体的な意見がもらえていて、事業所も速やかに改善に着手している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者とは連絡を取り合い、直接窓口へ伺い相談などさせていただき協力関係を築くよう取り組んでいる。生保利用者についても枠を設け、随時行政と連携して受け入れている。	成年後見など市を経由しての利用者が数名いて、市職員の訪問が頻回にあるため、コミュニケーションの機会が多い。運営推進会議の案内と報告(議事録)も毎回行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がどのようなものを月に1度の定例会で話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定例会で意識を克己しつつ、現場において気がついた点は管理者が個々に指導している。定例会を重ねてきて、職員意識も高まってきていると管理者も感じていて、訪問時も配慮のある職員の動きを視認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いには日頃から注意して、虐待に繋がらない様に未然に防げる様に努めている。月に1度の定例会でも情報共有を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護制度、成年後見制度を利用している方もいる。必要な方については活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は、書面にて利用者や家族に十分説明を行い、理解していただいた後に契約を結ぶよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々で話を伺う機会を設けている。居室で話したり、事務所に直接来られてお話を下さる方もいる。話の内容によっては全職員への通達を行い直ぐに対応できるようにしている。	支払いが引き落としでないため、月に1回は面会に来てもらっていて、会話をもつ機会がある。また、請求書の送付時に「ご家族への手紙」を手書きで封入し、遠方の家族にも安心してもらえるように努めている。納涼祭には大半の家族が集い、顔見知りになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見要望は、常に聞く姿勢をとっており、また、月に一度の会議には本部の参加もあり意見や提案を聞く機会を設けている。	マニュアルなど業務手順書は職員の話し合いで作成して、状況変化に伴う職員意見を反映し作り替えている。会議でも一人1回以上発言できるように、管理者が配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績や勤務状況を評価し、法人で社員表彰式を実施し向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行える様に現在整備している。また外部の研修についても提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の交流会や介護相談員・意見交換会に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と密な関係を築けるように、声かけ等を頻回に行い対話する機会を増やして、利用者様より話を伺えるような環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様とは別の席を設け、改めてお話を伺うようにしている。また、そのケースごとの事情に鑑みて、その都度柔軟に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等にて、アセスメントを行いサービス担当者会議を開催し、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりが役割を持って暮らしていけるような環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上でより良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、馴染みの方が訪ねてきており、懐かしい場所へ出向く事もある。利用者様との会話の中で記憶に残ってる事を交えつつ会話をしよう心掛けている。	家族のほかにも友人や近所づきあいのあった人の訪問がある。信仰を続けている利用者も数名いて、仏壇を持ち込んだり宗教新聞を購読している。墓参りなどは家族の協力を得て、叶っている。また、在宅時からの習慣ということでヤクルトを毎日飲んでいる人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の様子を見て随時話し合いながら、孤立する事が無いように、トラブルの発生を抑えるように、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すぐに関わりを断ち切らず、相談等などに応じて長くお付き合いをしていけるような関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。困難なときには一緒に行ったりして、自立支援につながるよう努めている。	利用者の訴えなどは経過記録に発語のまま記載するようにしている。また、担当者がアセスメントを取り直し、それをほかの職員に発表するという仕組みに来月から取り組む予定でいる。これにより、職員意識もさらに高まるものと期待される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時でのアセスメント等なるべく多くの情報収集を行い、またご家族にもお話を伺うようにしている。日々の関わりの中で、御本人から得られた情報も、職員間で共有しあっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・生活日誌や連絡帳などで情報を共有し、個別ケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、ご家族の要望も取り入れながら介護計画書の作成をしている。	プランと連携したケアの実践ができる職員を望み、どのようにプランに職員を参画させていくかを課題として、管理者は取り組み方法を再検討している段階である。現在は2名の計画作成担当者(1名はケアマネージャー)がプランを作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに経過記録を作成し、時系列にて記帳し活用して、情報を共有しながら実施や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物、娯楽等の支援を行なっている。個別のニーズに関してもケース毎に検討し、必要と思われることを柔軟に提供するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎回ではないが、運営推進会議に地域包括支援センターも参加をお願いしている。また、地元町内会会長にも参加をお願いし情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけ医と連携を図り、御家族様へに報告、相談し適切に受診がなされるよう努めている。	訪問看護が週2回、協力医の往診も月1~2回ある。ほかにも、1人の利用者のために往診してくれる医師もいる。在宅時のかかりつけ医も含め、受診支援のほとんどをケアマネージャーが担当し、情報の一元化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回が訪問看護師来訪し、バイタルチェックを行っている。その際、色々な相談が出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった際、かかりつけ医に紹介状を提供していただき、又、退院において家族、病院関係者と連絡を密にとり早期に退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある入居者への対応は、ご家族やかかりつけの医師と相談しながら、全員で支援している。	看取りに取り組む考えはあり、家族の要望に応えるためにも、医療連携(医療加算はとっていない)や職員教育を今後の課題としている。	ケースバイケースの事柄であるが、それでもいくつかのパターンを想定し、方針や手順などの整備に取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	重度化しつつある利用者様への支援は、御家族様やかかりつけ医等と相談しながら、全職員で支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、災害時の対応や手順等の訓練を行う。また、地区の防災訓練等にも参加させて頂く予定でいる。	事業所の重要書類は本部に随時届けられていて、情報のバックアップ体制が整っている。排泄処理や食糧など備蓄もある。また、市の防災訓練においては事業所が集合場所となり、200名余の地域住民が事業所の駐車場に集まっている。	事業所の防災訓練にも地域の人の参加のあることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを個人として尊重し、それ相応の言葉掛けを選ぶよう注意し合っている。また、プライバシー保護マニュアルを共有し対応策に努めている。	できるだけ名字で呼びかけるようにしている。ただし、ご希望があれば本人本位で対応している。トイレ誘導や排泄チェックの確認などにおいても言葉遣いを丁寧にするよう、定例会で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、イベント、食事など利用者様との会話の中で、できる限り自己決定していただけるよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを優先して、できるかぎりその人らしい生活を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ひとりに対し部屋担当が居り、衣服や内装に関して主となって気を配り、他の職員や御家族にも随時提案する等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、一人ひとりが可能な事を職員が考えて、声掛けを行い、出来る限り手伝っていただけるような支援を行う。	メニューは主菜をあらかじめ利用者に聞くなどして職員が決めていて、副菜や汁ものをその日にある材料で工夫して作っている。毎食撮影し家族に知らせている成果なのか、彩りよく見た目に美しく、味も大変よい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食記入して体調の状態が把握できるようにしている。水分摂取量に関しても日報に記入にて情報が共有できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをして口腔ケアを行ない、夕食後は入歯の洗浄・保管や洗口液の使用など行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを職員が把握して時間で誘導するように心掛けている。パットや紙パンツの使用も可能な限り夜間のみとする努力を行なっている。	バイタルとともに記録をとって、自立している人にも体調管理として失礼のないように確認している。なるべくトイレという方針で、時間パターンを把握して誘導に取り組んでいる。そのため、リハビリから布パンに向上した利用者者が2名いる。食事のご飯に寒天を入れて炊いていて、便秘対策にも日々取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・寒天などデザートに使用し、根菜類などを多めに提供している。またオリゴ糖等も活用している。また、腸の動きを活性化させる為にも体操や散歩も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回以上の入浴を基本として声掛け行い、今入るかどうかを本人に決めて貰ってから、なるべくゆっくりと入浴していただけるようにしている。	1日3人をめやすにしているため、ゆったりと入ってもらえている。毎日入りたい希望があれば対応するが、現状は希望がなく、また体調などを考慮すると足浴や清拭などサービスの変更で対応することになる。ゆずやしょうぶなど季節のお風呂にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は色々な手伝いをさせていただき、また身体を動かして夜はゆっくりと休んでいただけるようにしている。入居者様の体調を考慮して、寝たい時間に休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルを作成して、薬情報はさんである。また、薬の変更時には必ず申し送りノートに記入し、職員全員が読むようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人ひとりが趣味や生活歴を理解するために日頃から情報収集行い、楽しいと思えることを勧められるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩外出は出来る限り行い、個別での希望外出等にも対応することが出来るように職員の人員配置に配慮し、買物など、定期外出の機会を増やす努力をしている。	天候や体調がよければ散歩に出掛けたり、ベランダにて外気浴を楽しんでいる。また、花鳥園、日本平、三保の水族館などへユニット毎にドライブがてら外出する機会も作っている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、可能な方については支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なるべく本人の意思を尊重し、ご家族とも相談の上支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量には十分に配慮し、花を飾るなど、居心地の良いスペースを造れるように努力している。	廊下の足元にライトがあり、取り外しの懐中電灯になっていたり、夜間にはトイレの前にスポットライトがあたるようになっている。また、対面式のキッチンで共用空間が見渡せるようになっていて、総体的にインテリアに安全性が備わっている。また、衛生管理や換気など感染症対策に力を入れていることも視認した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	観葉植物を飾ったり、廊下には絵を飾ったりと見て落ち着ける居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が好きな物を把握し、希望の物があれば御家族様と相談しながら用意して、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	契約時に「家庭のままの空間で」と家族にお伝えしている。そのためか、仏壇や筆筒などが持ち込まれ、それぞれ個性的な居室となっている。身体の変化によりベッドから布団に替えている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽、トイレ、廊下などに手すり等設置し、歩行スペースを広く取る為、配置には気を付けている。		